

秘書に求められるパーソナリティの形成にアルバイトが果たす役割

The Effect of Part Time Jobs on the Acquisition of Secretarial Properties

(1989年4月7日受理)

垣見 益子
Masuko Kakehi

Key words: 秘書, パーソナリティ, アルバイト

I 本研究の目的

秘書に求められる資質は一般に、パーソナリティ・知性・教養・秘書技能であると言われる。欧米の秘書が、タイプ・速記・事務管理知識などの技能を特に要求されるのに対し、組織依存型が多い日本の秘書は、「人間関係の処理」に必要である人間的資質、即ちパーソナリティの方が重要視される。¹⁾ 全国短期大学秘書教育協会の調査によれば、上場企業を含む2,000社のうち75%が、秘書または秘書的業務担当者を選考するにあたり、「資格や技能よりも、パーソナリティを重視する」と答えている。²⁾

秘書に特に強く求められるパーソナリティの記述表現は著者によりいく分差異が見られるが、いずれも、信頼感や安心感を与える要素、好感を与える要素、仕事の能率を高める要素を含んでいる。「パーソナリティ」という言葉を本稿で用いるにあたり、筆者は、これを「人間性、つまり性格、能力、気質の個人的な特徴の総体」³⁾ ととらえ「生得的に得られる、先天的な形成にプラスした形で、後天的に自己分析、自己啓発をしていく諸段階で、環境要因との相互作用によってできあがっていく」⁴⁾ ものであるとする秘書教育者と同じ立場をとっている。

パーソナリティ形成に影響を及ぼす社会集団のひとつとして職場があり、「特定の職場や職業集団に属することによって、特定の技術や役割行動が要求され、他の職業から区別される行動様式やパーソナリティ特性を形成する」⁵⁾ と考えられる。正社員に比べ、パート、長期アルバイト、短期アルバイトの場合は、その順に職業的パーソナリティの形成は弱まると考えられるが、学生にとっての唯一の就労経験であるアルバイトが学生に与える影響は、無視できないものがあると予測される。

昭和63年度前期、秘書教育の一環として、「秘書学概論」履修の本学英語英文科2年生92名に「自分のめざすパーソナリティ」を決めさせ、そのパーソナリティ獲得の実践レポートを提出させた。パーソナリティおよび実践の場の選択は、表1、表2のようであった。実践期間が夏休みを挟んでいたためでもあろうが、26名もの学生が、アルバイト経験を通して秘書的パーソナリティを獲得しようと試みている。日常性を離れ、異なる環境、甘えの許されない他人の中に身を置くことによって、自己改善をめざしやすいと考えたのであろう。

表1 学生が選んだ
「めざすパーソナリティ」
(複数選択, 上位20位まで)

n=92, 単位:人

正しい言葉づかい	23	明朗さ	7
情緒の安定	17	正確さ	7
機転	17	几帳面さ	6
責任感	13	信頼感	4
機敏さ	12	謙虚さ	3
思いやり	12	忍耐力	3
粘り強さ	10	自立心	3
協調性	9	主体性	2
寛容さ	8	人の話をよく聞くこと	2
礼儀正しさ	7	落ちつき	2

昨今の日本の労働市場動向の一特徴として、第三次産業を中心としたパートタイム労働者求人が増加があげられる。⁶⁾ 学生あるいは若者を対象としたアルバイトもこの例にもれず、既に労働力供給源として定着した感がある。一方、学生の側でも、求人の多様化と呼応するように、アルバイト収入の用途が、学費、生活費、交通費などに加え、被服費、運転免許取得費、海外旅行費などと多様化してきている。アルバイトの普及につれ、その功罪が問われる状況の中で、本研究では、本学英語英文科生の業種別、職種別アルバイト動向および、アルバイトの功罪に対する評価を調査することにより、アルバイトが秘書的パーソナリティの形成に、いかなる役割を果たすかを探ることとした。

表2 学生が選んだ「実践の場」
(複数選択)

n = 92, 単位: 人

家庭での日常生活	30	大学祭	3
アルバイト	26	諸検定・試験	3
就職活動	21	教育実習	1
海外体験	8	学校生活	1
近所・友人つき合い	7	寮生活	1
自動車教習所	3	通信教育	1

Ⅱ 学生アルバイトに関する意識・実態調査方法

1. 一次調査⁷⁾

対象：本学英語英文科1年生74名、2年生83名、計157名

方法：質問紙を配布、その場で記入後直ちに回収

時期：昭和63年12月

内容：①経験したアルバイトの詳細（自由記述）

②アルバイトのプラス面とマイナス面（自由記述）

③アルバイト先を選ぶ基準（複数記号選択）

④アルバイト経験が就職後役に立つか否か（四段階尺度評価）

2. 二次調査

対象：本学英語英文科1年生95名、2年生100名、計195名

方法：一次調査に同じ

時期：平成元年1月

内容：①業種別、職種別アルバイト状況（複数記号選択）

②アルバイトの理由（　　ク　　）

③アルバイトの情報源（　　ク　　）

④アルバイト収入の用途（　　ク　　）

⑤アルバイトのプラス面・マイナス面（三段階尺度評価）

⑥職業観（　　ク　　）

Ⅲ アルバイトの実態調査結果および考察

1. 調査対象の属性

現住所、高校出身科、アルバイト初体験時期、に関する二次調査対象者の特性を、それぞれ、図1、

図2, 図3に示す。自宅からの通学者が全体の約79%を占め、出身高校は、普通科が全体の75%を占めている。また、1年生の約70%, 2年生の75%が、本学入学以前にアルバイトを経験している。1年生7名, 2年生4名, 計11名は全くアルバイトの経験が無い。

2. アルバイトの理由

10項目の理由を設定し、アルバイト経験者184名に最大限5項目まで複数回答させた結果を、図4に示す。1位の「お金が必要だった」が予想を下回った反面、「社会経験のため」が、56.5%と予想を上回った。「人格形成のため」と、アルバイト経験を自己の成長に役立たせようとした学生は、17.4%であった。3位の「暇で退屈だった」は、長期休暇中にアルバイトをした学生が多く選んだものと思われる。

学年別では、7位「アルバイト先に頼まれた」(2年生25.0%, 1年生13.6%)および9位「ただ何となく」(2年生9.4%, 1年生17.0%)以外の理由では、あまり差がみられなかった。

3. 業種別にみたアルバイトの状況

3-1. 調査時点でのアルバイト

まず、二次調査時点でアルバイト進行中の学生97名を対象に、業種別就労状況を調べた結果を図5に示す。業種の分類は労働白書を参考にした。サービス業は業務内容が多様であるため、(A) 飲食サービス業(レストラン、パブ、喫茶店など)、(B) 余暇サービス業(ホテル、遊園地、映画館、神社、結婚式場など)、(C) 生活サービス業(クリーニング、美容院など)、(D) 教育サービス業(塾、保育園、家庭教師など)、(E) その他のサービス業(保険、金融、医療、選挙事務所、広告代理店など)に細分した。

97名中ほとんどが、サービス業か卸売小売業のいずれかで働いている。また、サービス業の中では、(A) 飲食サービス業が最も多い。かけもちも最高3種類であるが、約85%の学生は、単一の業種で働いている。

(表3)

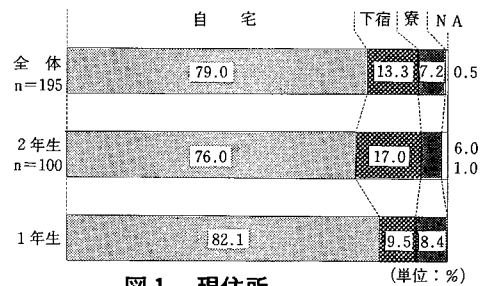


図1 現住所

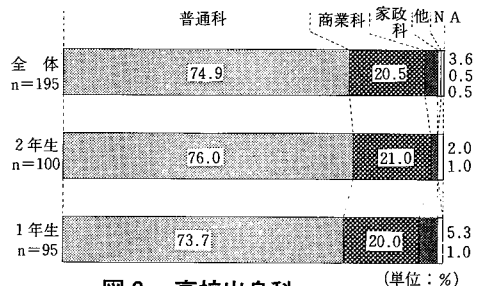


図2 高校出身科

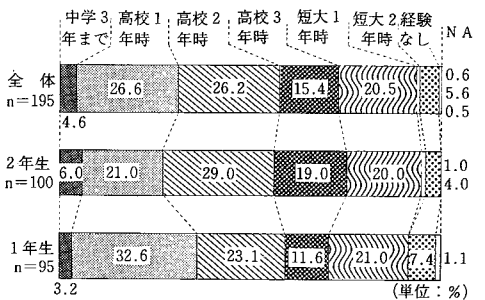


図3 アルバイト初体験時期

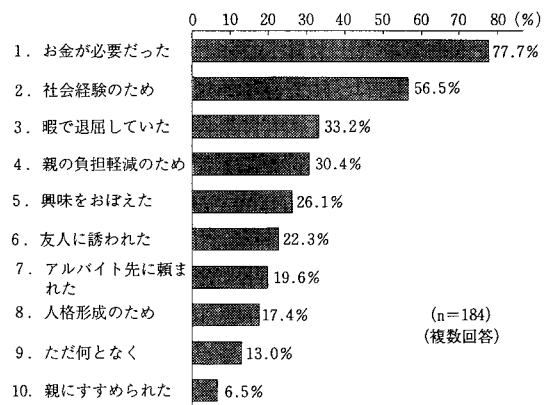


図4 アルバイトの理由

表3 業種別かけもち数
(調査時点)

n = 97, 単位: 人

種類	1	2	3	NA
1年生	40	6	1	5
2年生	42	2	0	1
計	82	8	1	6

3-2. 経験した全てのアルバイト

次に、調査時点までに経験した全てのアルバイトについて、同様に複数回答させた結果を図6-1に示す。サービス業でのアルバイト経験者が全体の約68%、卸売小売業が約66%を占めている。サービス業の中では、特に(A)飲食サービスが多く、約57%が経験している。図5、図6-1共に、同じ傾向を示しているところから、サービス業、卸売小売業が本学英語英文科生のアルバイトの主流であると考えてよからう。

全国的に見ても、昭和61年のパートタイム労働者新規求人約65%を上記2業種が占めており、なおかつ、高率の増加傾向をみせている⁸⁾。本調査結果も、これを反映したものである。

3-3. 学年別状況

図6-1を学年別に表わしたものが図6-2である。全体的に2年生に経験者が多いのは年齢上当然のことといえるが、教育サービス業においては、特に学年差が約15%と顕著である。英語力の差がその一因であると考えられる。

なお、経験した業種数は、最高6種類であるが、1年生は1種類、2年生は2種類の経験者が最も多くなっている。(表4)

表4 経験した業種数

n = 184, 単位: 人

種類	1	2	3	4	5	6	NA
1年生	31	27	21	7	0	0	2
2年生	15	35	26	10	6	1	3
計	46	62	47	17	6	1	5

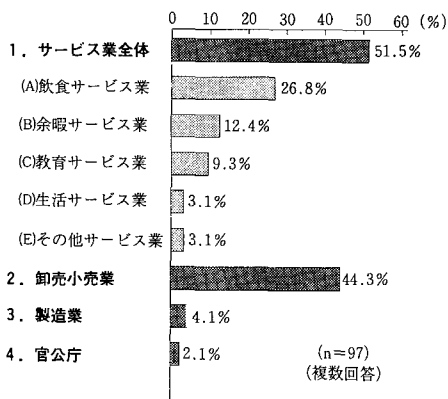


図5 業種別アルバイト状況
—調査時点のみ—

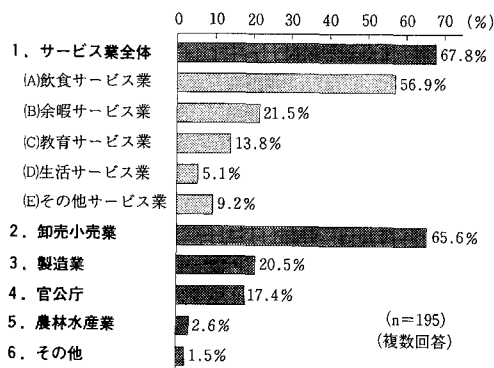


図6-1 業種別アルバイト経験者

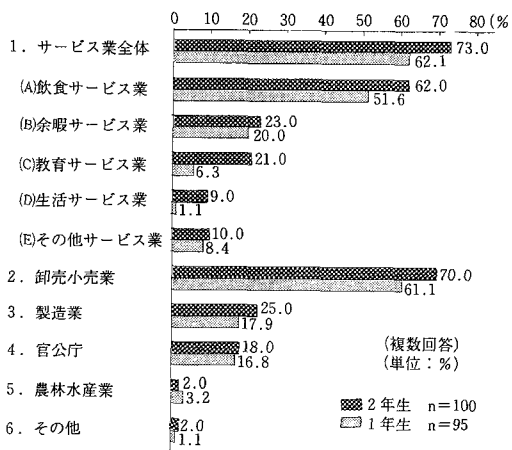


図6-2 業種別アルバイト経験者
—学年別—

4. 職種別にみたアルバイトの状況

4-1. 調査時点でのアルバイト

まず、二次調査時点でアルバイト進行中の学生97名を対象に、職種別就労状況を調べた結果を図7に示す。職種の分類は、一次調査における自由記述回答を参考にした。単一アルバイト先で複数の職種を兼ねている場合も含めて、複数回答させた。

97名中50名が1位「販売レジ」、29名が2位「ウェイトレス」のアルバイトをしているが、このうち13名が両職種を兼務している。6位の「コンパニオンA」はホテル・結婚式場などでの不定期な仕事で、勤務時間も日により大幅に変わる。8位の「コンパニオンB」は、博覧会などの仕事である。かけもち数は最高3種類であるが、約74%は単一の職種に携わっている。(表5)

表5 職種別かけもち数
(調査時点)

n=97, 単位:人

種類	1	2	3	NA
1年生	35	8	4	5
2年生	37	6	1	1
計	72	14	5	6

4-2. 経験した全てのアルバイト

次に調査時点までに経験した全てのアルバイトについて、同様に複数回答させた結果を図8-1に示す。図7と比較すると、弱干4位以下の順位に違いがみられるが、1位「販売レジ」2位「ウェイトレス」3位「作業」は共通である。特に「販売レジ」は、全体の約71%が経験している。

4-3. 学年別状況

図8-1を学年別に表わしたものが図8-2である。7職種において、2年生の経験者が多いが、特に2位「ウェイトレス」4位「事務受付」7位「教育」において顕著である。

なお、経験した職種の数は、最高で7種類であるが、1年生は1種類、2種類、3種類がほぼ同数で最も多く、2年生は2種類、3種類の順になっている。(表6)

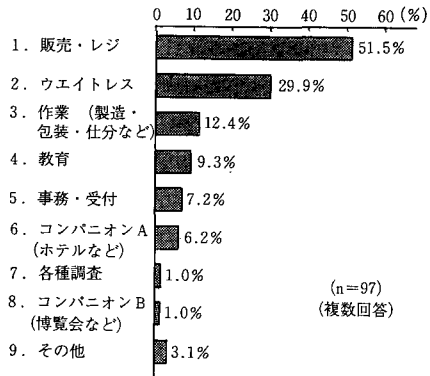


図7 職種別アルバイト状況
— 調査時点のみ —

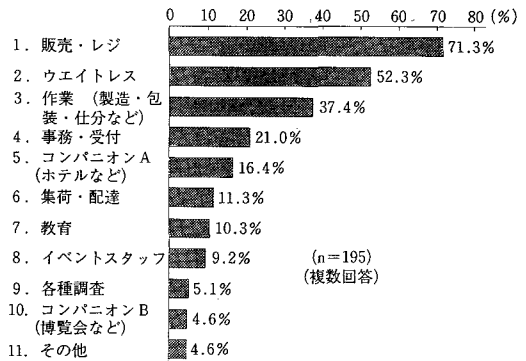


図8-1 職種別アルバイト経験者

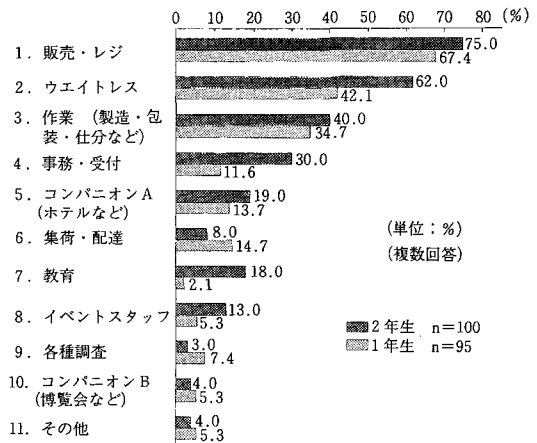


図8-2 職種別アルバイト経験者
— 学年別 —

表6 経験した職種数

n=184, 単位:人

種類	1	2	3	4	5	6	7	NA
1年生	21	22	22	13	4	0	0	6
2年生	12	33	24	15	8	2	2	0
計	33	55	46	28	12	2	2	6

の順になっている。⁹⁾

また、学生に無料でアルバイトを斡旋している文部省の外郭団体「学徒援護会」の調査では、東京圏の男女大学生のアルバイトは、1位「家庭教師・塾の講師」、2位「外食産業のウェイトレス、ウェイトレス」、3位「百貨店、スーパー、コンビニエンスストアの店員」、4位「企業の一般事務」、5位「交通量調査などの各種調査」となっている。¹⁰⁾

これら東京圏の調査結果と本調査結果の相違点は「家庭教師・塾の講師」である。東京圏では両調査とも1位を占めているのに対し、本調査では、全ての経験(図8-2)で7位、調査時点のみ(図8-1)の場合でも4位となっている。背景としては、①地方であり、教育熱が比較的低いこと、②短期大学であること、などの理由により、東京圏に比べて求人が少ないことが考えられる。その他の「ウェイトレス」、「店員」、「一般事務」については、いずれも上位を占めており、性別、地域、大学の種類を問わない、全国的な学生アルバイトの主流であるといえる。

IV アルバイトの功罪に関する学生の意識調査結果および考察

1. アルバイトのプラス面、マイナス面

前項Ⅲで、本学英語英文科生のアルバイトについて、その理由、主な業種、主な職種の状況をみてきた。本項では、上述の経験を有する学生達が、自らのアルバイトの経験のプラス面、マイナス面をどのように評価しているのかを考察したい。

1-1. 全体的状況

アルバイト経験者184名に、プラス面、マイナス面の各項目について、「大変プラス(マイナス)」「少しプラス(マイナス)」「全然プラス(マイナス)でない」の三段階尺度で評価させた結果を図9、図10に示す。プラス面の項目は、秘書に求められるパーソナリティを中心に、一次調査の自由記述回答を参考にして設定し、マイナス面の項目は、主に一次調査の自由記述回答を参考にして設定したものである。グラフ中の項目の順位は、「大変プラス(マイナス)」回答の多い順とした。

まず、アルバイト経験者が、マイナス面よりもプラス面を大きく評価していることがわかる。プラス面の評価が高いことの背景として、以下の項目に該当する学生が相当数いたことが考えられる。

- *具体的な目標を持ってアルバイトに臨んだ。(表2, 図4参照)
- *甘えの許されない緊張感のある環境で、新しい経験に真剣に取り組んだ。
- *秘書に求められるパーソナリティが、家庭生活、学校生活の中で身につけていなかった。
- *アルバイト中の失敗などを通して、自分自身を客観的に顧みる機会がふえた。
- *職場での指導が具体的で、少人数を対象に行なわれた。
- *受けた指導をすぐに仕事の中に生かすことができ、到達度が自分で確かめられた。

秘書に求められるパーソナリティの形成にアルバイトが果たす役割

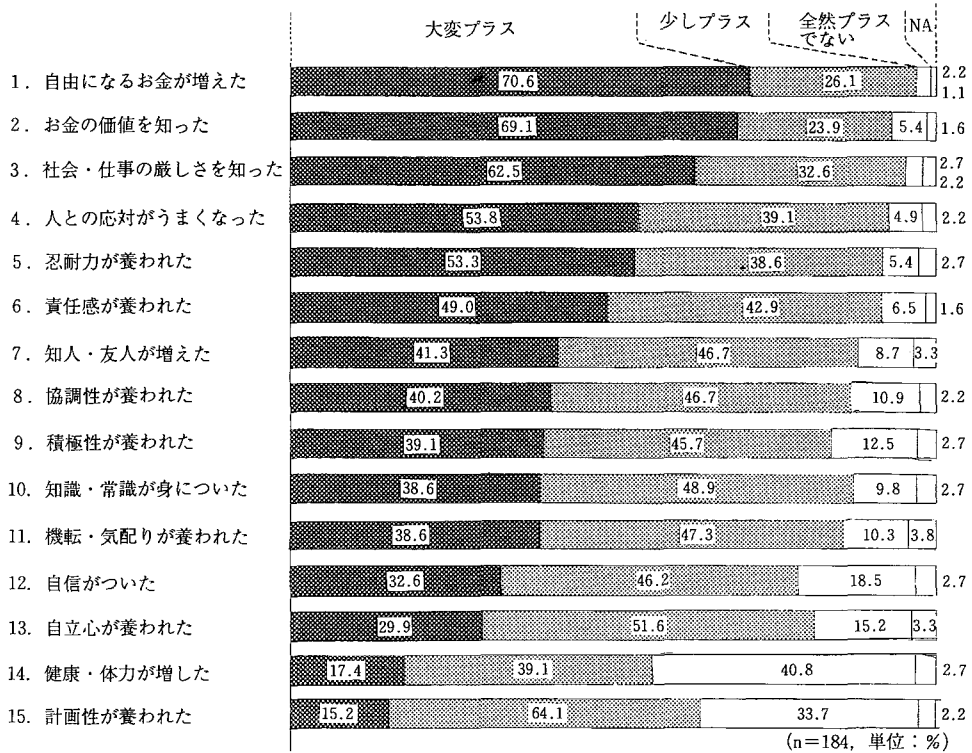


図9 アルバイトのプラス面に対する評価

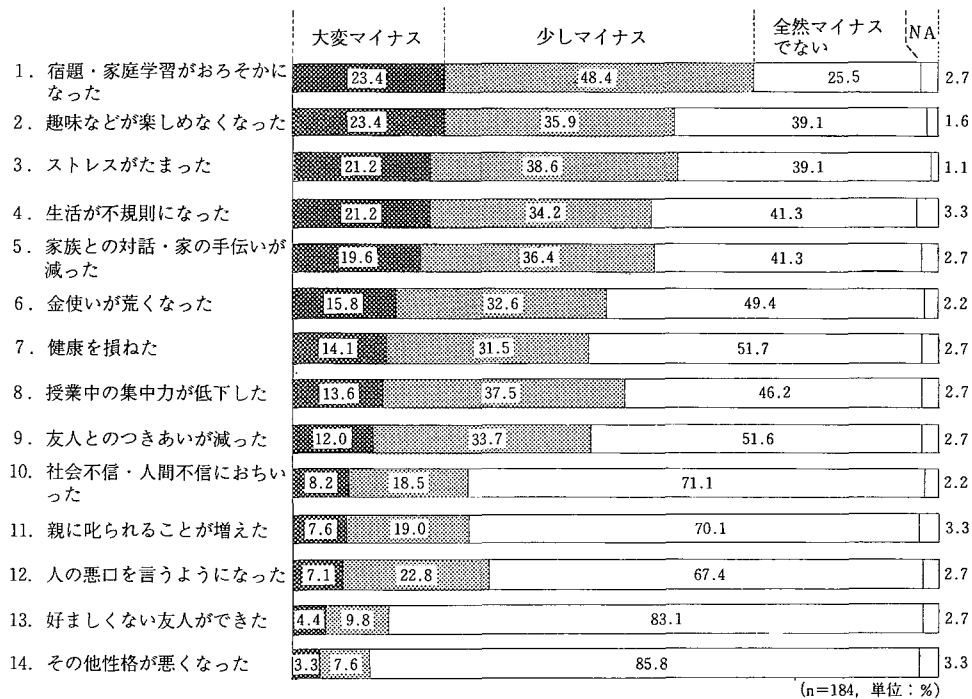


図10 アルバイトのマイナス面に対する評価

- *職場の人や客からほめられた。
 - *調査時、自分のアルバイト経験をプラスに評価したいという意識が働いた。
- また、マイナス面の評価が比較的低いことの背景としては、以下の項目が考えられる。
- *休暇・あき時間などを利用して、時間的に無理のないアルバイトをした。(図4参照)
 - *職場での人間関係に恵まれていた。
 - *マイナス面を自覚できないか、自覚できても過小評価する意識が働いた。

プラス面の15項目から、1位「自由になるお金が増えた」、7位「知人友人が増えた」、14位「健康体力が増した」の3項目を除いた12項目のうち、2位「お金の価値を知った」と3位「社会、仕事の厳しさを知った」は、社会に対する認識を深めるもので、社会に出るための心構えとなるものである。残る10項目は秘書に求められるパーソナリティに含まれる内容である。秘書的パーソナリティの中では「人との対応能力」、「忍耐力」、「責任感」が上位になっている反面、「計画性」、「自立心」、「自信」など短時間で形成されにくく、また向上が自覚されにくいパーソナリティは下位となっている。4位の「人との対応」には「言葉づかい」、「電話対応」、「大きな声」、「笑顔」などが含まれる。

マイナス面の14項目は、主に「時間不足」、「心身の疲労」、「不規則な生活から生じるひずみ」に起因するものである。調査結果を素直にみれば、30%近くのアルバイト経験者が、マイナス面を感じさせないアルバイトをしてきたことになる。一方、「宿題・家庭学習がおろそかになった」に約72%が「大変、または少しマイナス」になったと回答していることは、学業を本分とする学生としては遺憾なことである。また「自由になるお金が増えた」ためか、約半数が多少なりとも「金使いが荒く」なり、ローンなどを組むようになったと答えている。「社会不信・人間不信」におちいったのは、人間関係などで嫌な思いをしたり、今まで知らなかった流通業界などの裏側をのぞいたりした結果のようである。そしてたまった「ストレス」のはげ口として、家族や友人に「人の悪口を言う」ようになったのであろう。最下位の「その他性格が悪くなった」では、一例として「ずるくなった」があげられている。「好ましくない友人ができた」には、同じアルバイトの仲間と一緒に、仕事が終わったあと夜遊びに行く習慣ができてしまった例が含まれる。生活の基本姿勢に悪影響を及ぼす、これらのマイナス度を最小限にとどめ、プラス度が最大限に発揮されるよう、アルバイトの選択と実行が適切になされるならば、秘書的パーソナリティの形成にアルバイトが少なからぬ役割を果たすと考えて差し支えなからう。

1-2. 職種別比較

アルバイトのプラス面、マイナス面の多くは、その時期、頻度、時間帯などによって左右されると同時に、その職種によっても異なると予測できる。そこで、図7の1位から4位までの職種、「販売レジ」、「ウェイトレス」、「製造・包装・仕分などの作業」、「事務受付」について経験者の評価を比較した。プラス面の比較を図11に、マイナス面の比較を図12に示す。対象となる学生が最高7種類まで様々な職種を経験しているため、また、4職種経験者の数に大差があるため、各職種間の特徴が明確には出にくいきらいがあるが、多少の特徴をうかがうことができよう。

図11のプラス度比較では、項目を秘書的パーソナリティに関連のある12項目のみに絞っている。職種間の差の最も小さい項目は「人との対応がうまくなった」である。学生が、接客業に限らず、言葉づかいなどに気をつけていることがうかがえる。どの職場にあっても、まず第一に要求されることなのであろう。また表2に示すように、学生がまず身につけたいと思っていることでもある。次に差が小さい項目は「計画性が養われた」で、逆にどの職種でもあまりプラスにならなかったと考えられていることが

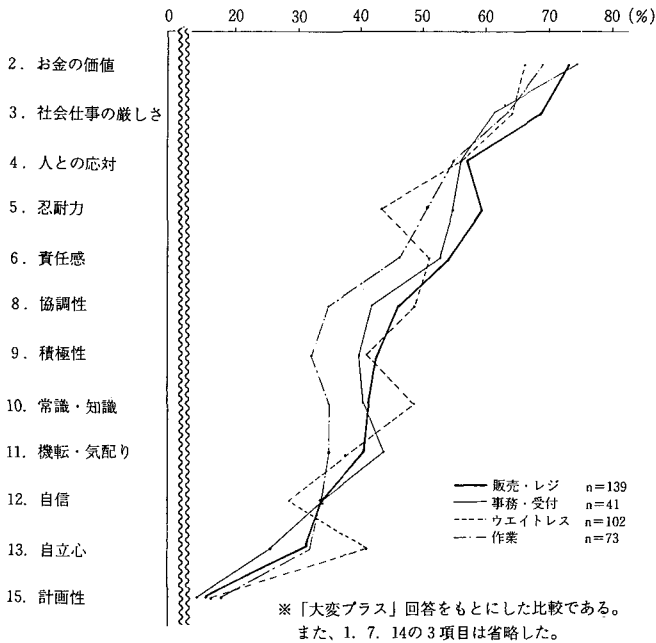


図11 職種別プラス面評価比較

表7 職種別プラス度比較
(単位:点)

項目**	職種 販売 レジ	事務 受付	ウェイ トレス	作業
2	2	1	4	3
3	1	4	2	3
4	1	2.5*	2.5*	4
5	1	4	2	3
6	1	3	2	4
8	2	1	3	4
9	1	2	3	4
10	2	1	3	4
11	2	3	1	4
12	2*	4	2*	2*
13	3	1	2	4
15	2.5*	2.5*	1	4
計	20.5	29	27.5	43

注* プラス評価の高い方から順位を点数化した。同順の場合は、各項目の4職種の合計が10点となるようにした。

** 図11の項目番号と対応する。

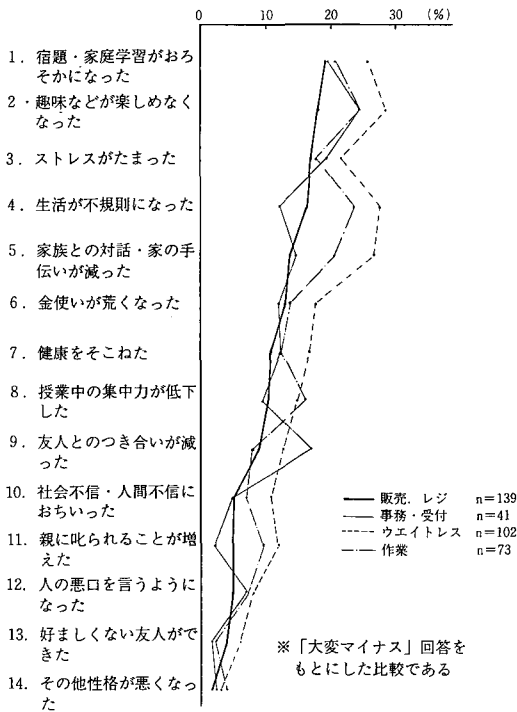


図12 職種別マイナス面評価比較

表8 職種別マイナス度比較
(単位:点)

項目**	職種 販売 レジ	事務 受付	ウェイ トレス	作業
1	1	2	4	3
2	1	2.5*	4	2.5*
3	1	3	4	2
4	2	1	4	3
5	1	2	4	3
6	2	1	4	3
7	1	2	4	3
8	2	1	3	4
9	2	4	3	1
10	1.5*	1.5*	4	3
11	2	1	4	3
12	1	3	4	2
13	3	1	4	2
14	1	2	3	4
計	21.5	27	53	38.5

注* マイナス評価の低い方から順位を点数化した。同順の場合は、各項目の4職種の合計が10点となるようにした。

** 図12の項目番号と対応する。

わかる。全体的に「作業」のプラス度が低くなっている。

図12のマイナス度比較では、「販売レジ」が全般的に低く、「ウェイトレス」が高くなっており、かなり明確な差がみられる。職種間の差が最も小さいのは、マイナス度が最低の「その他の性格の悪化」である。逆に最も大きいのは、「生活が不規則になった」で、「親に叱られることが増えた」と酷似している。前者が後者の一因となっていることも考えられる。「不規則」性が「ウェイトレス」が最も高く「事務受付」が最も低いのは、多分に労働時間帯や時期の違いによるところが大きいと思われる。一次調査の自由記述によれば、「ウェイトレス」は、平日の場合夕方5～6時から9～10時までの勤務が多く、11時を過ぎることもある。従って、学期中でも授業終了後にアルバイトをすることができる。一方、事務受付は、平日午前9時頃から午後5時までが主で、休暇中のアルバイトが多い。「作業」が多くの項目で、「ウェイトレス」を下回りながらも類似の動向を示していることは予想外であり、その背景については今後の研究に委ねたい。

プラス面、マイナス面の各項目に関する4職種間の順位を、点数化して合計したものが、表8、表9である。プラス面は「大変プラス」回答の多い順に、マイナス面は「大変マイナス」回答の少ない順に順位をつけた。差が0.5%以下の場合と同順とみなした。その結果、プラス度は高い順に1位「販売レジ」、2位「ウェイトレス」、3位「事務受付」、4位「作業」となり、他方マイナス度は低い順に、1位「販売レジ」、2位「事務受付」、3位「作業」、4位「ウェイトレス」となっている。各項目に重要度の差があり得るし、また順位間の差の大小もあるため、これらの点数化された数値が、各職種のプラス度、マイナス度を厳密に反映したものであるとは言い難いが、一応、いずれにおいても1位である「販売レジ」の経験者が一番多く自らのアルバイト経験のプラス面を高く、マイナス面を低く評価していることになる。しかし、一口に「販売レジ」と言っても、喫茶店や夜間のコンビニエンスストアから、デパートまで、アルバイト先は多様である。やはり、アルバイトをする本人の目的意識と自覚、そしてアルバイト先の厳選が、最も重要な要因であることは言うまでも無い。それらの条件が揃えば、アルバイトは、学生にとって、良き秘書的パーソナリティ形成の場であり、社会に巣立つ前の訓練の場であり得るといえよう。

デパートでのアルバイトを「めざすパーソナリティ獲得」の場を選んだある学生は、レポートの中でこう述べている。「アルバイトをすることによって、いくらか社会の一部をみることができだろうと思ひ、毎日あるデパートで仕事をした。そこでは上司とか先輩の社員に対しての言葉づかいや、お客様に対しての接し方、裏方としての事務・商品管理など、いろいろ教わった。」同じくデパートでアルバイトをした別の学生はこう述べている。「言葉の使い方もアルバイトの中で身についた。ここの社員の接客態度を見ていると感心することばかりだ。接客しているときは本当にいきいきとしていて、尊敬してしまう。アドバイスの仕方もさすがだ。接客をしていなくて、暇なときでさえ、表情がきりっとしている。社員の方が接客をしていて、私が何もしていないときは、できるだけその方に耳を傾けて、言いまわしを研究した。それだけでも、何もしなかった時に比べると、敬語の使い方が分かってきた。」

V ま と め

本学英語英文科生を対象にして、アルバイトの実態、および、アルバイトが秘書的パーソナリティの形成に果たす役割を調査、検討し、以下の結果を得た。

(1) アルバイトの理由として、経済上の理由に加えて、半数が「社会勉強」を、三分の一が「余暇の利用」をあげている。17%余りの学生は、「人格の形成」を理由としている。

(2) 業種別にみると、全体の65%以上が、サービス業や卸売小売業でアルバイトをした経験をもつ。サービス業の中では飲食サービス業が最も多い。一人平均2.3種類の業種を経験している。

(3) 職種別にみると、全体の70%以上が「販売レジ」を、50%以上が「ウェイトレス」を経験している。一人平均2.7種類の職種を経験している。

(4) アルバイト経験者の約80%が「計画性」、「自信」を除く全ての項目でプラスになったと評価している。秘書的パーソナリティの中では、「人との対応能力」、「忍耐力」、「責任感」が特に高く評価されている。

(5) マイナス面は、「学業」への影響が最も多く認識されており、70%を越える。60%近くの学生が「趣味が楽しめなく」なったり、「ストレス」がたまったりしたと答えているが、全体的にプラス面と比較すると、マイナス面を自覚している学生は少ない。

(6) 職種間のプラス度は、「販売レジ」、「ウェイトレス」、「事務受付」、「作業」の順に高く、マイナス度は、「販売レジ」、「事務受付」、「作業」、「ウェイトレス」の順に低い。

(7) アルバイト先の適切な選択および学生の目的意識によって、アルバイトを秘書的パーソナリティ形成の有効な手段の一つとして利用することが可能である。

なお、今回の研究では、アルバイト期間の長短、および、その時期が調査項目に含まれておらず、また、複数職種経験に基づいたプラス面、マイナス面の評価を調査したものであったため、各職種におけるアルバイト経験固有のプラス面、マイナス面や、期間、時期の違いによる差異を探ることが困難であった。これらの点は、今後、更に調査項目を充実させることによって研究していきたい。また今回の研究を今後の秘書教育、学生指導の上で参考にしていきたい。

注

- 1) 田中篤子 『秘書の理論と実践』 法律文化社 1983 p.31
- 2) 全国短期大学秘書教育協会 『女性の秘書的業務についての調査』 1987 p.51
- 3) 佐藤啓子 『秘書総論』 ビジネスアカデミー 1976 p.25
- 4) 全国短期大学秘書教育協会 『秘書学概論』 紀伊國屋書店 1988 p.91
- 5) 水島恵一 『パーソナリティ』 有斐閣双書 1980 p.208
- 6) 8) 労働省 『労働白書』 1987 p.11
- 7) 二次調査の予備調査を兼ねる
- 9) 『日経流通新聞』 1989年1月5日
- 10) 『毎日新聞』 1989年3月20日

参考文献

- 1) 全国短期大学秘書教育協会編 『秘書学概論』 紀伊國屋書店 1988
- 2) 森脇道子 『秘書概論』 建白社 1986

- 3) 田中篤子 『秘書の理論と実践』 法律文化社 1983
- 4) 現代秘書実務研究会編 『現代秘書ハンドブック』 実務教育出版 1978
- 5) 田中篤子 『秘書学概論』 佐賀野書院 1985
- 6) 佐藤啓子 『秘書総論』 ビジネスアカデミー 1976
- 7) 実務技能検定協会 『秘書検定受験ガイド』 早稲田教育出版 1983
- 8) 加藤秀子 『国際秘書入門』 ジャパンタイムズ 1983
- 9) 全国短期大学秘書教育協会 『女性の秘書的業務についての調査』 1987
- 10) 河村真澄 「労働者派遣法と秘書」『秘書教育研究年報 第12集』 1988
- 11) 労働省 『労働白書』 日本労働協会 1987
- 12) 水島恵一 『パーソナリティ』 有斐閣双書 1980